

2012年12月の大気大循環と世界の天候

大気大循環

ロシア北西部の上空は明瞭なりッジとなった。これに関連して、地表付近のシベリア高気圧が北西に張り出し、シベリア南部の寒気が中央アジアからロシア西部に流入した。日本を含む東アジアでは偏西風が南に蛇行し、北極域からの強い寒気が入りやすかった。太平洋から北米にかけては波列パターンとなり、偏西風が南北に蛇行した。

熱帯の対流活動は、インド洋中・東部で平年より活発、南シナ海から太平洋西部にかけて不活発だった。赤道季節内振動に伴う対流活発な位相は、下旬にインド洋を東進した。対流圏下層の赤道域は、インド洋で西風偏差、インドネシア付近から太平洋西部で東風偏差だった。対流圏上層は、北インド洋からフィリピン東方海上にかけての高気圧性循環が平年より強かった。南方振動指数は-0.5だった。

世界の天候

2012年12月の世界の月平均気温偏差は+0.05°C（速報値）であった。12月の世界の平均気温は、上昇傾向が続いており、長期的な上昇率は約0.71°C/100年（速報値）である。主な異常天候発生地域は次のとおり。

○東アジア北部から中央アジアの広い範囲で異常低温となった。

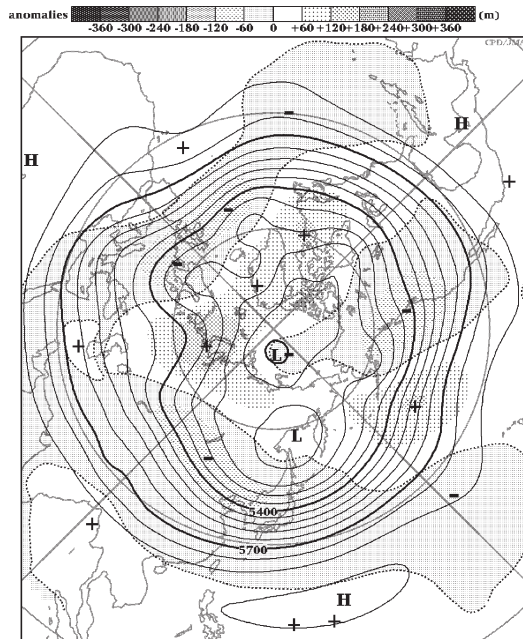
○ヨーロッパ北西部・南東部では異常多雨となった。

○フィリピンではミンダナオ島を通過した台風第24号の影響により、1000人以上が死亡したと伝えられた（フィリピン政府）。

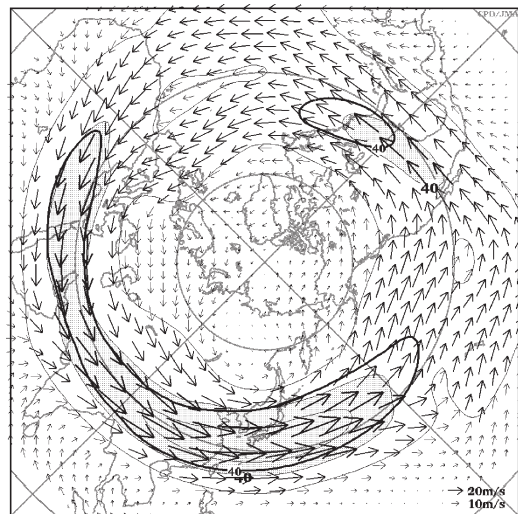
（気象庁 地球環境・海洋部 気候情報課）

※ より詳細な情報については、気象庁ホームページ「気候系監視速報」をご覧ください。

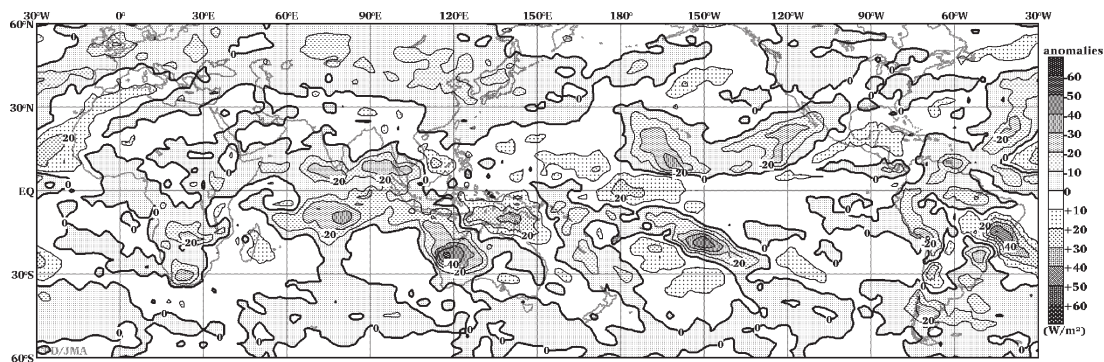
<http://www.data.jma.go.jp/gmd/cpd/diag/sokuho/index.html>



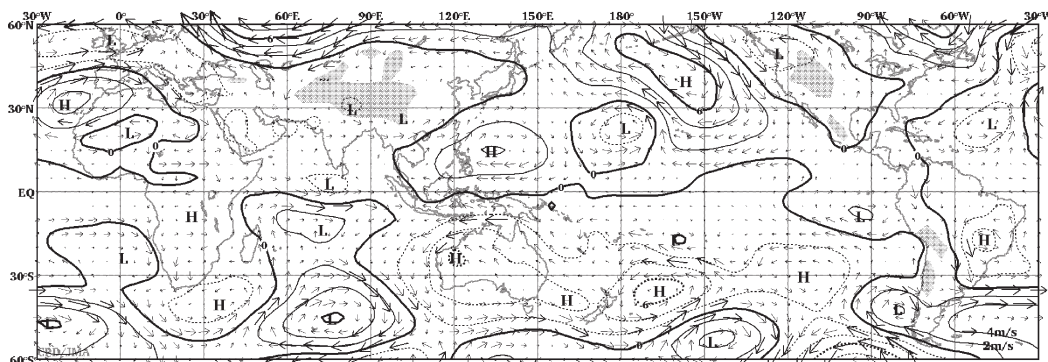
2012年12月の北半球月平均500 hPa 高度および平年偏差
等値線間隔は60 m。陰影は平年偏差。平年値は1981～2010年のデータから作成。



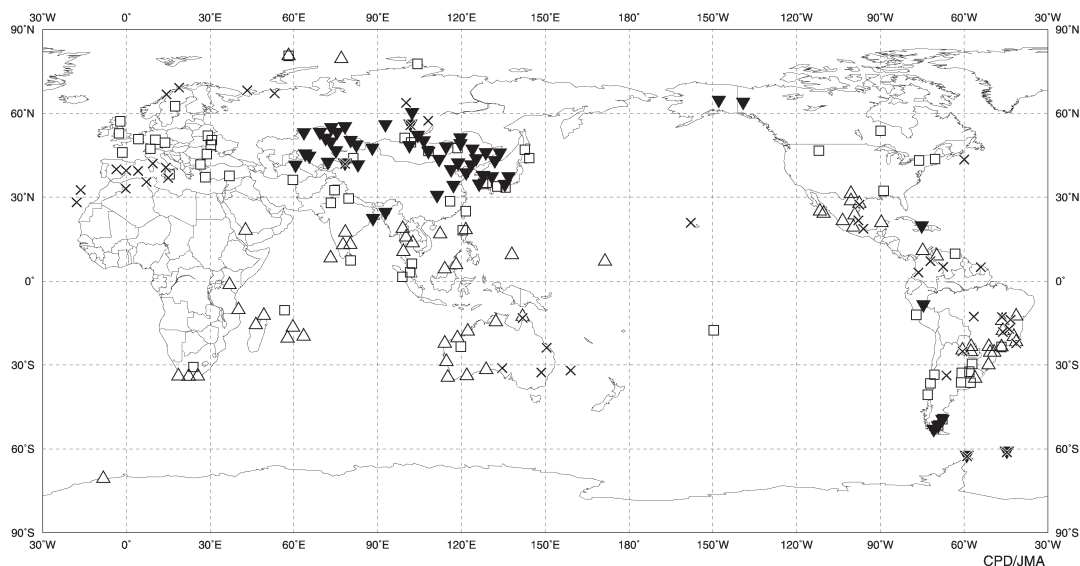
2012年12月の北半球月平均200 hPa 風速および風ベクトル
等値線間隔は20 m/s。陰影部は40 m/s以上。太実線で囲まれた領域は平年の40 m/s以上の領域を示す。平年値は1981～2010年のデータから作成。



2012年12月の月平均外向き長波放射量年偏差
 等値線間隔は10 W/m²で、値が小さいほど対流活動が活発であったと推測される。元データはNOAA。年偏差は1981~2010年のデータから作成。



2012年12月の月平均850 hPa 流線関数年偏差および風年偏差ベクトル
 流線関数の偏差の等値線間隔は $2 \times 10^6 \text{ m}^2/\text{s}$ 。年偏差は1981~2010年のデータから作成。



2012年12月の世界の異常天候分布図 △異常高温 ▼異常低温 □異常多雨 ×異常少雨
 異常高温・低温は標準偏差の1.83倍以上，異常多雨・少雨は降水5分位値が6および0。